

白駒さん熱弁 和田勇シンポに450人

報恩感謝の人生、志のリレーを

御坊市顕彰事業

御坊市、市教育委員会、和田勇顕彰会共催の「御坊ゆかりの国際人・和田勇シンポジウム〜東京にオリンピックを呼んだ男〜」は15日、市民文化会館小ホールで開き、市民450人が出席。「博多の歴史」として有名な歴史研究家の白駒妃登美さん（福岡市在住）が「祖国を思う心〜和田勇さんのオリンピック秘話」をテーマに講演。全国各地で

年間200回を超える講演を行い、うち和田氏は40回取り上げており、和田氏の功績や生き様を紹介しながら「日本人が最も大事にしてきた報恩感謝の人生そのもの。志をリレーし、和田さんのごとく生きることが大事」と熱弁をふるった。和田氏の功績として戦後間もない1949年、全米水泳選手権大会に参加した古橋広之進氏ら選手団が宿

泊拒否にあった際に選手を自宅に泊め、献身的に世話したこと。東京五輪誘致では私費を投じて夫婦で中南米やヨーロッパ諸国を訪ね、支持を呼びかけ、最下位の下馬評を覆して開催を実現したこと。メキシコ五

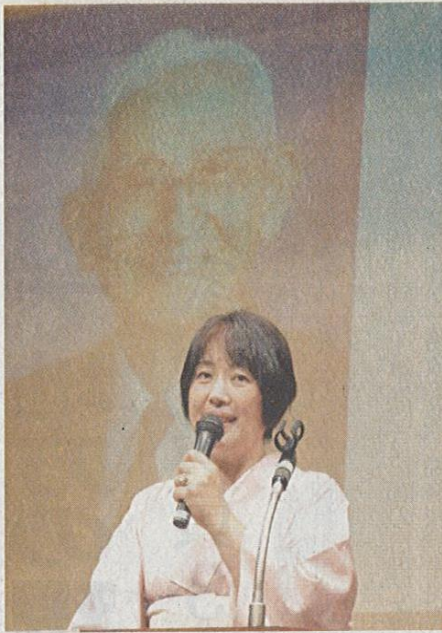
輪やロサンゼルス五輪、札幌冬季五輪の誘致に尽力したこと。晩年は福祉事業に力を注ぎ、日系人高齢者のための日系引退者ホームの建設に奔走したことを紹介。

「和田さんの人生は人の恩に感謝し、その恩を返す『報恩感謝』の人生。和田さんにとつて命を賭けてでも守りたいものは祖国への思いだったと思う。祖国のため、日本人のため、日系人のためという思いは日本人

が古来よりずっと大事にしてきたことで、まさに世のため、人のためという日本人の生き方を体現した素晴らしい人。だからこそ、晩年、日系人ホームを建設する際、和田さんに世話になったアスリートや政財界から4億円を超える寄付が集まった」と生き様を称賛。

さらに「夢はその人が亡くなってしまえば終わるが、志は亡くなった後も誰かに受け継がれる。志のリ

レーが日本の歴史の本質であり、その中に私たちもいる。和田さんを育んだ和歌山の遺伝子には惻隱の情があり、この地にも和田さんの志が生き続けている。和田さんの報恩感謝の志を継承し続けるとともに和田さんのごとく生きて下さい。1964年の東京五輪が戦後復興の象徴であったように、2020年の東京五輪が震災からの復興になるよう心から願っている」と話した。



和田氏の報恩感謝の人生を語る白駒さん